

討

「在宅介護」の今、これから放談～福祉サービスと市民活動(ボランティア)による相互乗り入れ支援のうまいあり方はあるのか。その可能性を探る。

司会・矢野●今日、集まってもらったのは在宅介護・在宅福祉の現状とともに制度・プロの限界と、家族介護者・当事者の限界、さらに地域福祉 欠かせないボランティアや市民活動の目指す所を話せればと思います。じゃあ、まず塩澤さんから。

■介護保険は契約主義と競争原理の二重綴じ。そこで抜け落ちたのが「本来の福祉」。給付抑制もあるし、一定の限界を見ざるを得ない。…じゃあ、次に誰とやれるかだ。

塩澤●老人ホームの施設長やっていますが、施設運営する法人側から見ても間違いなく「在宅」の流れです。ただ在宅福祉を実現するのに、あくまでも公的な福祉サービス(介護保険)でいくのか、それに一定の見切りをつけ

て(限界を見て)、家族か、または“新しいコミュニティ”でいくのかの分かれ道にあると思います。確実なのは施設だけで解決する

「ない」。要は「介護保険に付き合いきれるか、限界を見ているか」ということ。

介護保険が乗っている「利用者本位」から入って現実としての「契約主義」。そして「介護の社会化・市場門戸開放」の入り口から入って「競争原理」。この二本綴じです。介護保険の中で抜け落ちた最大のものが「

ティアや、手に習いのあるセミプロ等に移行すると思います。

開始の理由は、いま、介護

社。宇都宮にデイサービス立ち上げるので、と声がかかって。通所介護に務めましたが、そこヘルパーの時と同じ思い。そこで考えたのは、利用者が朝起きた「デイサービスに行きたい」と思う所に

「あの人は、飲んでった」

高田●そうなんです。私も「申しわけ い、かわいそう」と思っ 務時はその線はしっかり引いていました。ある時、利用者からまったく、ヘルパーさんはありがたいけど、俺たちは人形じゃないんだよ。あんたたちもロボットじゃ

汗ダラダラかいて入浴介助してくれたあんたに麦茶飲んでいきなって、これは、人として当たり前だろうと言われ、「あ、本当にそうだな」と。何かすーっと訪問介護から足が遠のきました。

次に勤めたのが外資系の企業の介護事業所。コーディネーター・管理業務でした。24時間体制で自分の生活は全くな、夜中に徘徊の探 かなりのやりがいがあった、妄想癖のるおばあちゃんの夜間の見守り、老健入居者の傾聴とか、本当に幅 仕事があったんです。

アメリカで始まった事業ですが、いろんなニーズがありました。ところが料金があまりにも高く、ハイレベルな生活している人でないと利用できない。2時間からしか受けない。そして6000円。

ある時、ヘルパー事業所が何件変わっても受入 ない“やっかいな利用者さん”がいました。私たちはスタッフとのお宅に行き、最終的には家族の一員として受入れられたんです。それは介護保険ではできなかったでしょうね。民間の「枠がないサービス」だったからできたと思うんです。「こうい のがもっと増えないかな」と思いました。

その次に勤めたのは大手の介護事業の会

討論 / 在宅介護の今、これから

NPOの配食サービスが来なくて、
来ない。だから、その日に合わせ

菊池●利用者一人に対して担当者会議がある
んですね。でも普通はそこにボランティアは
入れてもらないでしょ？

高田●そうです。ボランテアは
。ケアマネさんの意識もあ
ると思いますが。会議には一人の利用者に、
医者や訪問看護婦、ヘルパー、民生委員、福
祉協力員とかが入ってますが。

矢野●ティアが自分の主張している活
動をやってるだけで、ヘルパーなど福祉のプ
ロのできなさを指摘してるだとも多
い。高田さんは「プロのことも分かっている優
秀なボランテア」なわけだ。そういう人でな
いと会議への参加は無理だと思うよ。

塩澤●ボランティアだけで在宅は成立しな
い。だから、高田さんが言うように、「プロの
限界を容認できるボランティア」がほしい。

■もう、いっぱいいっぱい！「家
族、家族って言わないで」って感じ。
◆これからの社会は働き方も変えな
いと会社も従業員も共倒れかも。

矢野●では次に、在宅介護の真っ最中の菊池
さん。

菊池●「介護は、家族が理して下さって」よ
く言われるんだけど、「家族・家族って言わな
いで」って思う。もう、いっぱいいっぱい。
今、夫の両親を介護してます。ばあちゃんが
施設に入っていて、じいちゃんは日光に一人
暮らし。要介護2で認知もあります。

菊池●介護のパターンは、水曜日の昼と夜が

施設を地域化するかっていうのが今課題だから、それを渾とさせましうとのが今の考え。

矢野 戻るけど、いわゆるプロとしてやるべきこと、例えば「サービスの提供の公平性を確保するために、お茶飲んじやい

「QOLみたないもいよとなる。

■在宅を可能にする生き方は「それまでのネットワーク」だと思う。隣人、近所の人、友達が訪ねてくれる、物くれる…。子どもがいなくてネットワークがあるかどうか。■「お節介する・される」、「地域で目配せしながら生きる」がポイント

始めていると思う。介護保険外の新しいサービスを生み出したり、ヘルパーが感じて介護保険の中の窮屈さをどう突き崩そうかというところに踏み出している人はやっぱりまよ。山中●それは少数だと思うな。塩澤●ただ全体の流れを牽引している。逆に言うと、そこまでしてやりたくない営利法人なんかは引いて(撤退して)いくんですよ。それをやるのが本来の使命だって言える社会福祉

矢野●さて、最後に山中さん。配食ボランティアが見た在宅。山中●、「いいとこ取り」の食事サービスボランティアをしています。思うの在宅でいられる高

てない。だから結局

か。自分の自転車で動ける範囲をくまなく回って、何かやってるんですよ。母は白猫。どうす　常に考えて生きている。「最後まで自分できちっと生きていければ、どんな人とも関われるんだよね」って。矢野●ポイントは「お節介力」ですかね？山中●近所に70歳まで、　たおじいちゃんがいいて、その後　くパーキンソンで健康を害しちゃった。そ　たらもう外出できない。だから奥さんは知ってるけど旦那さんとは没交渉。60歳ちょこっとくらいでやめて楽しんだら良かったのになと思う　ね。働けることが生きがいったんだけれど、やっぱりほ　どほどで地域に戻って目配せし　と上手に付き合っていく必要はあると　う。菊池●だけど、男の人はやっぱ　介して構ってもらわないと難しいよね。

矢●　はお節介力あるんだよな。自営　だと自分で時間がコントロールできるから。サラリーマンじゃ難しいよね。

徘徊老人を月に2、3は　ットしてますね。犬の散歩がレーダー、GPSです。徘徊の時間に合わせて。夏場は夜8-10時です　。

矢野●高田さん、認知症の人の発見で何か心掛けてることがあるとか。

高田●私は認知症サポ－　してます。講座をやると皆さんがサポーターさんになる。それ　なっただけ」ですよ。オレン　ングをその時もらっただけですよ。じゃあ、実際徘徊老　るかを、行政は全然つっこまないので、正直、私は「数だけ増やしてるサポーター講座って何なんだよ」って思っています。矢野●どのくらいの頻度で発見できるんですか？高田●私は年中。月に2から3はゲットしてますね。ワンちゃんの　歩がレーダーなので。GPSです。犬の散歩がたいたい徘徊　合わせた時間にするように心掛けてます。　場、四季通していろいろですね。今度、　

　たい夏まで。秋から冬は　時から。暗くなると、寂しくなってくるんじ　ないかな。山中●地域の人は夜中に徘徊老人発見してもどこに連絡すればいいか知らない。高田●　ういう時によく講座の中で、包括さん(地域包括　センター)が　てくるじゃないですか。「包括さんが、あな　たちの頼りですよ」とあの中で訴えてますけど。正直、全然頼りにならないと思うんです。それは　徘徊する方の時間帯に包括は閉　っちゃうから。そういう時に、しかるべきネットワークなかったら、いくら発見してもそこから繋がっていかないので、死亡事故とか悲しい結果　になる。

高田●「探し人」はいろんなところに張り紙してあるんですね。「ワンちゃんいません、猫ちゃんいません」の横に「おばあちゃん、何月何日こんな服着ていなくなりました」っていうのが、あるんですよ。それ、皆　ごくあるんで　。

　私はその度に、写メ撮って全部自分の携帯に入れとくんですね。車に乗ってても「あの　人、こないだの電柱のそこ　貼ってたじい　ち　」とビビッと思うと、携帯見ると、絶対その時の洋服なんで、何にもかも放り投げて、　後ろから行っはダメ　ので、回って正面から、さ　り合いの人のように「　

　って。張り紙には苗字が書いて　ますから、中山甚平さんだったら「甚平さん、こんばんは。お久しぶりですね」って言うと、だんだん気持ちがフレンドリーになり、一緒に並びながら「時間も遅いから　、ばあちゃんに怒られちゃうから」。「そうかい、悪いねえ」なんて　って、必死で聞き出しながら、すごい時間かけて、家を探して…。

　その間、　は「ごめんなさい、また、　見　までやってこい」って感じです(笑)。娘は「お母さんの車はどこ？　迎えに行くけど」とか。家族の協力があるからやれ　てるんですけど。

　私、認知症ト－カーです（笑）。サポーター講座ばかり増やしてないで、そのネット

ワーク作って下さいって。本当に心から